

2022年度事業報告書

1. 事業活動方針

- (ア) 認定 NPO 法人の目標や活動内容を周知し、一般市民からの賛同を得るように努め今後の寄付活動の準備を進めた。
- (イ) 小田原城天守を木造で復元するために必要な調査や関連事業を実施。
- (ウ) Web や SNS を通して広く木造復元の周知活動。講演会等を開催し普及活動を実施。

2. 事業内容

(ア) 小田原城天守木造復原に関する普及事業

① 小田原城天守調査研究プロジェクト（次ページ参照）

- 1. 天守木造復原に必要な研究、人材育成、資金検討等の具体的な課題への解決案を提案していく為の研究活動。

② 講演会(2022年5月21日)

- 1. 当会の小田原城調査研究室と理事による講演。

① 「現存天守と小田原城天守の構造について」

宮本 啓（小田原城天守調査研究室専任研究員）

② 「歴史的建造物用の大径木調達について」

辻村 百樹（当会理事/辻村農園・山林 代表）

(イ) その他この法人の目的を達するために必要な事業

① 小田原城天守等復元的整備調査検討会議

文化財課をはじめとする小田原市、後藤治先生をはじめとする学識経験者、当会理事長をはじめとする当会メンバーで構成された小田原城天守復元のための公的組織。この会議の議事録は小田原市のサイトで公開中

第1回：2022年7月5日開催

第2回：2022年8月22日開催

第3回：2022年10月18日開催

第4回：2022年12月2日開催

第5回：2023年1月30日開催

第6回：2023年3月29日開催

- ② 当会の Web サイトや SNS、紙面による「お城通信」等にて活動内容の周知や普及活動を行なった。

以上

【第1号議案】

小田原城天守調査研究室 事業報告

1. 研究内容

本研究室は2018年度に策定した研究概要に則り、随時調査・研究を継続している。2022年次(2022.6～2023.5)は主に、実測調査した史資料について査読付き論文としてまとめ、日本建築学会へ提出した。また、城絵図や文献調査を継続している。

(ア)主な調査・研究

① 査読付き論文

「東大模型」と「小田原城三重天守引図」(1/20)について新たな知見が得られたため、その結果を研究員宮本、高橋政則氏、後藤治教授と共に論文に纏めた。

② 文献調査等

『小田原市史 別編 城郭』を基に、市内外に現存する城絵図を、天守や櫓に特化して再検討を行い、また既知の文献についても同様に見直しを行っている。

(イ)研究成果

上記についてこれまでの成果と今後の課題を示す。

① 査読付き論文については、2本とも日本建築学会に採用された。「小田原城三重天守引図」(1/20)は模写図ではあるが、架構方法や種々のディテールから、年代は不明であるものの、実際に現存していた天守を実測して描いた「現況図」のような性格であった蓋然性が高いことがわかった。「東大模型」については構法史としては比較的古いとされる「互入式通柱構法」が採用されている。

② 城絵図については、天守が描かれているものを中心に、元禄地震以前の天守も含めて、その形態的な変遷を調査中である。文献調査は、作事方大工頭であった鈴木家の通称「鈴木修理日記」に、江戸城に存在した三重櫓と小田原城天守との関連が記載されていたため、「江戸城造営関係資料」を中心に調査を継続している。

2. 今後の活動

(ア)成果の発表

論文は学会提出とともに市民への理解を深めるために、小田原城総合管理事務所の協力の下、「夜の天守閣ツアー」を企画し、論文の内容について史資料を前に解説を行った。

(イ)史資料調査

小田原市との協働の下、市が所蔵する文献や史資料(特に他の引図、絵図)について引き続き調査を行っていく。

以上